

斜面工学研究小委員会編集ワーキンググループ 議事録(案)

開催日時：平成16年4月23日(金)

時間：午前10時～12時

場所：土木学会2F会議室

出席者：後藤委員長、稲垣副委員長、上野災害WG長、佐々木環境WG長、中野景観WG長、青木委員、岩佐委員、太田委員、小嶋委員、梁瀬委員、大野幹事(敬称略)

配布資料

資料1．「成果物出版 - 一般書 Q&A」の出版に向けて

資料2．出版企画書

資料3．Q&A と執筆予定者リスト

議事内容

1．後藤委員長より議事説明

後藤委員長より、本WGの開催の経緯や意義についての説明。

2．Q&A 項目の検討

下記のような項目について議論された。

総合科学「斜面工学って何(後藤委員長)」「斜面工学のアプローチの仕方は(大野幹事)」「21世紀の斜面工学とは(稲垣副委員長)」の3つの項目については、2003年の土木学会全国大会の内容を利用する。

総合科学「海外での取り扱いは」の執筆者：佐々木環境WG長

環境と生態系「土石流に強い植物はどのようなものがありますか」の執筆者：佐々木環境WG長

環境と生態系「森林が及ぼす動物への影響」の執筆者：岩佐委員

環境と生態系「スキー場の緑について」の項目を追加。執筆者：中村先生

景観と計画「斜面景観の評価方法は」と「渓流景観の評価方法とは」の2つの項目を1つにまとめて「斜面・渓流景観の評価方法は」とする。執筆者：大野幹事

景観と計画「都市計画での斜面計画の位置付けとは」の執筆者：上野災害WG長、小嶋委員

景観と計画「斜面計画の考え方」と「斜面の利用計画にはどんなことを考えますか」の2つの項目を1つにまとめて「斜面の利用計画にはどんなことを考えますか」とする。執筆者：上野災害WG長

景観と計画「日本古来の斜面景観とは」の執筆者：佐々木環境 WG 長

景観と環境「水と斜面の景観の重要性は何ですか」の執筆者：大野幹事

景観と計画「斜面の電力資源としての利用」の執筆者(依頼担当)：後藤委員長

景観と計画「ラウンディングって何ですか」と「グレーディングって何ですか」の
2つの項目を1つにまとめて「ラウンディング・グレーディングって何ですか」と
する。執筆者：築瀬委員

執筆者に、菊池先生(横浜国立大学)を入れる。

なお、**各委員は、必ず1項目を作成する。従って、次回の本委員会までに、執筆者にな
っていない委員の方には、執筆可能な項目(新しい項目も可)を挙げてもらう。**

3. 執筆要領について

執筆の取りまとめは、大分類毎に、下記の委員が担当する。

総合科学としての斜面工学：後藤委員長、稲垣副委員長、大野幹事

社会科学の側面：後藤委員長、稲垣副委員長、大野幹事

防災の側面：上野災害 WG 長

維持管理の側面：釜井維持管理 WG 長、太田委員

環境と生態系の側面：佐々木環境 WG 長、岩佐委員、青木委員

景観・計画の側面：中野景観 WG 長、築瀬委員

また、執筆にあたって、以下のことが議論された

書籍としては、地盤工学会で出版した「生態系読本」を参考にする。

執筆要領は、地盤工学会の生態系読本の出版で用いられたものを参考に作成する。

参考文献は、項目ごとに掲載する。

各項目の内容は、執筆者に一任する。

各項目の内容は、「一般から専門家まで」を対象とした書籍ということで、文章
を平易に書くことに努める。

版下原稿を学会に提出するので、執筆にあたっては、レイアウトを各自きちんと
行う。

執筆者には、1項目当たり1冊の献本とし、執筆料は支払わない。

なお、以上のことを考慮した執筆要領は、5月の次回本委員会までに稲垣副委員長が案
を作成し、委員会で審議する。

4. 工程について

執筆及び出版までの工程を以下のようにする。

平成 16 年 5 月 28 日(金)：本委員会で、各項目の執筆者を決定する

10 月 30 日(土)：第 1 次原稿の最終締め切り(期日厳守)

原稿は依頼後随時受け付ける。

原稿送付先は、大分類の責任者宛に送付する。各大分類の責任者は、そのコピーを大野幹事に送付する。

なお、執筆状況は、大野幹事が毎月件数を全員メールで送信し、執筆の啓発を図る。

11 月中：各項目間の内容調整（編集WGにて）

12 月中：修正依頼

平成 17 年 1 月 31 日(月)：修正原稿の最終締め切り

2 月中：原稿の最終調整(編集WGにて)

5 月ごろ：出版